第16号 発行

22.3.31

立命館大学 HECO3-8577 京都市北区等持院北町56-1 電話 075-465-8306(事務局) Mail ro-toyo@st.ritsumei.ac.jp

調

白川静博士揮毫の色紙

目次◆index

| | 裕之 | - 3 3 - |
|---------|---------------------------------------|--------------------|
| 15 | ····································· | 一年目を迎えた「漢字教育士」の活動 |
| 14 | 申一 | 第十二回創作漢字コンテスト |
| | 裕之 | 久保 |
| 13 | 文男 | 文化事業活動報告後藤 |
| 11 | ÷ | 教育活動報告 |
| 11 | 敏夫 | 二〇二一年度連続公開講座高島 |
| | 隆夫 | 杉橋 |
| : 10 | | 日本文献研究プロジェクト報告 |
| 8 | 弘道 | 芳村日中韓漢籍研究プロジェクト報告 |
| | 徹 | 大形 |
| : 7 | | 漢字学研究会活動報告 |
| : 4 | | 東洋文字文化賞の選考結果について |
| | | 第十五回立命館白川静記念 |
| | 弘道 | 芳村 |
| 3 | | |
| | | 「和漢の書香」―「立命館土曜講座」と |
| | 弘道 | 芳村 |
| | | |

白川静博士揮毫の色紙

長芳村 弘道

所



芸文研究会が一九八六年八月二八日に臨時間先生を顧問として組織された本学の中国の事は多言に在らず)」を掲げた。これは白静博士揮毫の色紙「天下事不在多言(天下静では、白川の「研究所便り」の表紙には、白川

てより、額装にして寒室に掛け三十五年余になる。 骨文字による書もこの時が最初であるとのお話であった。拝受し 典を示された。先生は書幅や色紙などの揮毫が稀であり、また甲 典を示された。先生は書幅や色紙などの揮毫が稀であり、また甲 と出いて、行草書で釈文を付し、「録兪樾句(兪樾の句を録す)」と出 と出

> し上げる 事業の両面に成果を発信してゆきたい。 であるが、 幸いである。 動を行った。 続となり、本誌に報告したとおりの研究と文化事業におい は二〇二二年度からに延期され、二〇二一年度は、 ゆきたく期している」と述べた。ところが「新たな五カ年計 五カ年計画をたて、 があることはいうまでもない。 プが流行するのも、さまざまな言説が行き交う現実世界から離れ はなはだ飛躍することであるが、 弁ぜんと欲して已に言を忘る」に似た境地をいうように思われる。 るかと思う。陶淵明の「飲酒」詩中の有名な「此の中に真意有り、 みを知るのであって、 中の人のみ惟だ自ら楽しむを知る)」というものである。それで楹 「山中人惟知自楽」の境界に一時でも身を置きたいがゆえであろう。 年間の活動も計画通りに進まなかったが、 しかし、現実には「多言」が求められ、学術においてその必要 究極の真理に帰着するものである、 新年度以降も大いに「多言」をもって、 来年度からの 御一 自然に包まれて山間に日々を送る人だけが生の楽し 読あって当研究所への御理解を深めて頂け 困難な情況のなかで、より良き成果を挙げて 俗世の諸事については多くの議論を要せず 「新たな五カ年計画」 昨年の小誌上に 目下、 コロナ禍の日本でキャン 一層の御支援を御願 というほどの意味にな 来年度からは新たな 「当研究所のこ は改めて策定 研究と文化 既存計 て諸 画 ħ 0) 申

(立命館大学特任教授)

平井嘉一郎記念図書館での和漢貴重本展示「和漢の書香」―「立命館土曜講座」と

所長芳村 弘道

二〇二一年度を締めくくる「立命館土曜講座」を当研究所が引き受け、二〇二一年度を締めくくる「立命館土曜講座」を当研究所蔵和漢貴重本の紹介」と加えた。三月五日の「立命館土曜講の館大学所蔵和漢貴重本の紹介」と加えた。三月五日の「立命館土曜講の館大学所蔵和漢貴重本の紹介」と加えた。三月五日の「立命館土曜講座」第三三五三回は、川崎佐知子研究員が担当し、翌週は芳村が担当した。本お、この講座は疫情に鑑みて、オンラインで実施された。文献学の見なお、この講座は疫情に鑑みて、オンラインで実施された。文献学の見なお、この講座は疫情に鑑みて、オンラインで実施された。

当日に題を探って詠む当座などがもよおされた。これらが、「いつ(日 た日に執り行われる月次御会では、 与を抑止された朝廷では、学問としての和歌が盛んにおこなわれた。 ションの特色をなしている。「禁中並公家諸法度」により政治への関 参加者・歌題・和歌)」実施されたのかを記したのが「御会集」である。 められた題を廷臣が詠み、懐紙に清書した。稽古のために毎月決まっ 正月の御会始、 主催した和歌御会の記録 基盤とする蔵書群である。そのなかには、 立命館大学図書館西園寺文庫は、 資料としての希少性には乏しいかもしれない。しかし、 「誰が(主催)」「何のために が編纂されなくなって久しいこのころ、「御会集」は堂上歌人 七夕、重陽などの年中行事的な御会においては、 「御会集」がまとまった数存在し、 (草稿)や懐紙、 西園寺家から寄贈された図書類を (目的)」「どのようにして 予め触れられた題を詠む兼日や、 江戸時代の天皇や上皇が 短冊などに比べれ 「勅撰和 コレク

村は、「立命館大学所蔵の漢籍貴重本」と題して講師を務めた。その西園寺家のおもかげをここにみることができるかもしれない。の和歌活動の体系的把握に役立つものと思われる。かつての清華家・

内容の概略は、次の如くである。 芳村は、「立命館大学所蔵の漢籍貴重本」と題して講師を務めた。その

明代出版の戯曲書など、学術的に貴重なものが少なくない。 画像を示して解説し、魅力ある漢籍の世界に誘った。 初めてその一部分を取りあげて、紹介することにした。 学所蔵の漢籍は充実した。本学の所蔵本には、「天下の孤本」というべき であったが、その後、四○年近くの間に購入、寄贈によって、さらに大 を編纂したことがある。後者は、当時の大学全体の漢籍を網羅した目録 大学図書館漢籍分類目録』、ついで八六年に『立命館大学漢籍分類目録』 蔵されている。 系文献資料室(旧文学部文献資料室)・修学館リサーチライブラリーに収 装訂になる書籍)も相当数あり、それらは平井嘉一郎記念図書館・人文 立命館大学が所蔵する漢籍の古書 今まで一般の方々に紹介する機会をもつことができなかった。 かつて多くの方々の協力を得て、 (巻軸や糸綴じ本など、 一九八四年に『立命館 精選した善本の 残念なこと 東洋古来

年三月四日から三〇日まで)。主な展示本・資料を以下に挙げておく。和漢の貴重本の展示を、これも「和漢の書香」と題して開催した(二〇二二この「立命館土曜講座」に合わせて、平井嘉一郎記念図書館において

【和書の部】

飛鳥井歌会始』、『太政大臣公相五百回忌追善和歌』。御当座』、『元文五年八月二十日京極中納言殿五百回忌追善』、『延宝六年三年御会〕』、『公宴享保八年』、『宝暦九年御会』、『元禄十六年仙洞御法楽『新院御会部類集』、『天和三年四月廿二日道之御灌頂畢竟御会』、『〔天和二・

【漢籍の部】

曲選」、 王国維・ 特勤碑 明万曆刊五色套印本『(劉氏) 文心雕龍』、清康熙殿版 康有爲手識本『新学偽経考弁』、宋版 』、清陸心源手校鈔本『政経・心経』、唐鈔本古筆切れ 明万暦金陵唐振吾刊 吉川幸次郎旧蔵本清嘉慶刊 『(鐫新編全像) 『錦繍万花谷』、五山版 『国朝詞雅 邯鄲夢記」、 「詞譜」 民国拓本 「李善注文選」]、明万曆刊 [元 『景徳伝灯録』、

第 東 洋文字文化賞 五回立命館 白 の選考結果につ]]] 静記念 () 7

ために、功績のある個人および団体の業績を表彰することを目的として 本賞の制定がその一助となることを願っています。 います。 文化研究所が、 立命館白川静記念東洋文字文化賞は、立命館大学白川静記念東洋文字 日本社会・文化の継承と発展、東アジアの平和と繁栄のために 東洋文字文化の分野における有為な人材を奨励支援する

受賞が決定しました。 二〇二〇年度も全国より応募があり、 厳正な審査の結果、 三名の方の

賞挨拶とあわせてご自身の研究成果について御報告をいただきました。 れました。受賞者の大槻信氏、 念図書館カンファレンスルームにて、仲谷善雄総長臨席のもと執り行わ 授賞式は二〇二一年六月二六日(土)に衣笠キャンパス平井嘉一 阿部卓也氏、 松川雅信氏の皆様には、 郎記

立命館白川静記念東洋文字文化賞優秀賞 〈第十五回〉二〇二〇年度募集分

大槻 信

京都大学大学院文学研究科 教授

受賞理 山

減少している。 が現代語の理論研究の成果を積極的に取り入れていくという流れの中 古辞書は、 古辞書の資料性を十分に理解し、適切に研究に利用できる研究者は 日本語史研究の重要な資料である。しかし、 単著 『平安時代辞書論考―辞書と材料―』 は、 日本語史研究 古辞書を

統

ある。 観点から、 厚い研究の蓄積に裏打ちされたものとなっており、 細な解題であり、 纂過程」にも通じる。 を大きく転換させたものである。この視点は、 められている。 とどまるものではない。第二部の「各論」では、 利用する日本語学・日本文学の研究者にとって、必読の書となるもので 第一部は「概論」だが、 事実の意味を的確に把握し、一般化しようと試みた論考が収 従来の辞書史研究に見られなかった視点で、 大槻氏の文献の扱いの確かさも十分確認されるもので 『類聚名義抄観智院本』 一つ一つの論証が、 は、 論文「『新撰字鏡』 「辞書と材料」という 大槻氏のこれまでの 諸本比較も含めた詳 初学者向けの解説に 辞書史研究

受賞者の声



とともに、これからいっそうの精進が必要であると、 身が引き締まる思いです。 誠にありがとうございます。たいへん光栄に思います このたびは、栄えある東洋文字文化賞をたまわり、

てきた様々な古辞書に見られる不統一を、材料との関わりから、 る制約を受ける」ことを主張しています。 そして、「古辞書は、そのあり方の根本的なレベルにおいて、 聚名義抄』)を取り上げ、辞書と材料との関係について考えています。 では、主として、平安時代の三つの辞書(『新撰字鏡』『倭名類聚抄』『類 づいて、多くの場合、 と材料―』の概要は以下の通りです。 の古辞書に関わる研究です。中心となる拙著『平安時代辞書論考―辞書 一的に説明しようとした研究ということになります。 先行の辞書類を材料として作られています。 授賞の対象にしていただいたのは、 辞書は基本的に何らかの材料に基 従来、 個別の現象と考えられ 主に日本

今回の受賞に関しては、字書を多く残された白川先生の名前にちなん

と思います。かただいた賞の名に恥じないよう、今後も研鑽して参りたいあります。いただいた賞の名に恥じないよう、今後も研鑽して参りたいだ賞を、古辞書の研究を通していただいたということで、格別の喜びが

立命館白川静記念東洋文字文化賞教育普及賞

阿部 卓也

愛知淑徳大学 准教授

受賞理由

その後、 社モリサワの創設者)のひらめきから写真の仕組みと写植機が発案され テクノロジーを背景に、 おける文字組み規範の成立をめぐって」は、写植全盛時代、 文「写真植字の普及と杉浦康平の実践:一九六〇年前後の日本語組 書体である。それを設計した中村征宏氏について論じたものである。 は大衆文化の中の文字」の「ナール」と「ゴナ」は、一九七〇年代から 国字問題等々について論じられている。論文「「ナール」「ゴナ」あるい での論考である。この論文では、 金属活字による活版印刷が主流であった一九二三年、 真植字」(以下、 版において印刷文化を支えたのが今回の論文のテーマになっている「写 た。一九七〇年代前半に複数のカラー雑誌が創刊されたが、 (上):石井茂吉と森澤信夫の実践一九二三-一九三三」は、文字組版が 九八〇年代にポスターや雑誌などにもっとも多く使われた新しい写植 写真植字は我が国の印刷文化、 写植機に搭載する漢字選択の前に立ちはだかる漢字廃止論のような 石井茂吉 写植)である。論文「写真植字の「発明」」をめぐって (株式会社写研の創設者)と共同して実用化に至るま グラフィックデザイナーの第一人者であった杉 天才肌の森澤と学者肌の石井の対比 殊に文字組版において一時代を築 森澤信夫(株式会 写植という その文字組

である。いずれも新たな観点を交えた、示唆に富む内容となっている。

受賞者の声



文化とテクノロジーの関係を読み直す、というもので私の研究主題は、デザイナーの杉浦康平と、写植とい私の研究主題は、デザイナーの杉浦康平と、写植といこの度は、白川静記念東洋文字文化賞教育普及賞と

ません。回、文字論の分野から評価をしていただけたことは、本当に喜びに堪え回、文字論の分野から評価をしていただけたことは、本当に喜びに堪え論という三領域を架橋できる問題設定だと考えたからです。ですから今す。このテーマを選んだ理由は、それがデザイン論、メディア論、文字す。このテーマを選んだ理由は、それがデザイン論、メディア論、文字

史の接点に立つ」という序文から始まります。念刊行物『文字の宇宙』(一九八五)は、白川静の「文字は、神話と歴には「S先生」として白川静が登場しますし、杉浦が企画した写研の記には「S先生」として白川静が登場しますし、杉浦が企画した写研の記ました。杉浦のデザインは、時代の中で白川文字学とも深く響き合ってき

ます。
恥じぬよう、これからも日々一層の努力をし、弛まず研究に励んで参り恥じぬよう、これからも日々一層の努力をし、弛まず研究に励んで参り

立命館白川静記念東洋文字文化賞獎励賞

松川 雅信

日本学術振興会 特別研究員 (PD)

受賞理由

浦康平氏が我が国のタイポグラフィに与えた影響について、論じたもの

松川雅信氏の研究の大要は『儒教儀礼と近世日本社会-闇斎学派の『家

氏は闇

学派 闇 礼 これから本格的な研究の深化を期待したい。 に注力している。 序を補強するものであったことに着目 視した儒教儀礼 斎学派の教学内容とその 0 教説内容の に集約される。 (家礼) 詳細 それに向けて、 な読み込みがなされていることは評価に値 が近世日本社会の 機能の分析を企図している。 日本の儒者の学派で最大の門人を擁した山 これまでの その 秩序形)類書以上に門 相関性を解き明 成 の要であ 人も含め 『斎学 かすこと Ó た家秩 ける が

受賞者の声

載る儒教儀礼をい し選出いただき、 題につき、 はこれまで、

この度、 寸 日本思想史の立場から研究を行ってきま 命館白川静記念東洋文字文化賞奨励 かに受容・ 近世日本の儒者が朱熹著 誠にありがとうございます。 実践していたの 『家礼』 かと 賞に Š

に描 した。 意味でも、 ても強く自覚されていた点に気付くことができたように思います。 的意味を有していた事実を認知すると共に、 であったのではないかとする推論に基づい 実は白川静先生の名著 いていく ただ、こうした研究を行う中で私が密かに影響を受けてきたのは この度の受賞は大変光栄に存じます。 『孔子伝』 『孔子伝』でした。孔子が喪礼を担う巫祝の出 の論述を通じて、 私は儀礼が儒教にとって本質 て儒教の発生 そのことが 日本儒者にお 展開を鮮 その やか

申し上げます。 るよう、 これからも受賞に相応しい内実を伴った研究を行っていくことが より 層の 研 鑽に努める所存です。今後とも何卒宜しくお願 でき

> 芳村 弘道 (立命館大学白川 静記念東洋文字文化研究所長

委員長 下中 美都 、株式会社平凡社代表取締役社長

委

大形

徹

、立命館大学衣笠総合研究機構

教授

問

杉橋 萩原 加地 伸行 樹 美 (立命館大学衣笠総合研究機構 (立命館大学衣笠総合研究機構 (立命館大学文学部 教授 研究顧 研究顧

홹 (立命館大学文学部 教授



第 15 回「立命館白川静記念東洋文字文化賞」表彰式の様子 (2021年6月26日、立命館大学衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルームにて) 後列左より萩原正樹教授、松尾肇子研究員、石井真美子教授、松本保宣教授、 杉橋隆夫研究顧問、 久保裕之氏

前列左より大形徹教授、芳村弘道所長、仲谷善雄総長、大槻信氏、 阿部卓也氏、松川雅信氏

漢字学研究会活動報告(二〇二一年度)

字の成立と展開」・「漢字の応用」放送大学大阪学習センター(大形徹)。 京都女子大学文学部東洋史特殊講義、二〇二一年前期(山田崇仁)、「漢

二〇二一年一月に漢字学研究第九号を発行、金文通解

[京成叔鼎

副所長 大形 徹

文化研究機構 文與西周時期社會性別問題、 演、日本中国学におけるIT利用環境の歴史について、佐藤信弥 國延世大学、オンライン)。大形徹 友子)、山田崇仁が発表 学人文科学研究所元所長の金文京氏に特別講演、 未来」と題するシンポジウムを手話通訳付きでオンライン開催、 思想を紐解く―」を講演。三月十九日に「東アジア漢字文化の過去・現代 百六十五回で孔令竹・大形徹が「『孔子世家譜』と論語の一節」を講演し、 百六十四回で大形徹が『老子』・『荘子』と不老不死の仙人、七月三日第 日第百六十三回で石井真美子が「『孫子』と先秦の兵書」、六月五日第 国理解講座で「西王母と女媧―二人の女神―」を講演。なお五月十五 天福地」を発表した。また同日、重信あゆみが孔子学院第百六十九回中 会をつとめた。 草野友子が立命館大学で「若手研究者竹簡學國際會議」を開催、総合司 オンライン)を開催、大形徹が開会の挨拶等を行ない、平川南氏(人間 た。十二月四日~五日に立命館茨木キャンパスで日本漢字学会 形徹・孔令竹、 二〇二二年一月二十九日第百七十回では、草野友子が「『墨子』―その 二〇二一年十月三十一日~十一月七日に世界漢字學會第八屆年會 機構長)に特別講演をしていただいた。十二月一八日に 同日、専修大学の洞天福地研究会で大形徹が「泰山と洞 中文翻訳董涛 關於 張莉(出野文莉)關於日本的識字教育、 《論語》的 各国会長団致辞、 論。 曹方向氏 和『語』を行なっ 山田崇仁 (通訳、 (対面 基調講 京都大 草野 鼎銘 (韓 大

ス 漢字関係の授業。 (横大路綾子·末次信行·笠川直樹·村上幸造·大形徹)、 「漢字学」姫路市立生涯学習大学校 一年・二年コー 「漢字の歴史」

> 胡雲鳳 學論著目「二〇一九年古文字學論著目 趙平安「從 田崇仁)・郭靜「先秦「率」・「衛」・「遳」異體字用意之區分」(落合淳思)・ 獻提要「、世界漢字學会第七屆年會報告論文より、白於藍 報告[二〇二〇年オンライン學會參加記(佐藤信弥)]・古文字學研究文 呉王餘昧劍 (山田崇仁)・陶觥 (石川大我)]、字説 [疫について (大形徹)]・ 川直樹)・韓伯豐鼎(佐藤信弥)・柞伯簋(村上幸造)・季姫方尊(三輪健介)・ 説 "咠、字的釋讀談到甲骨文的 "巴方、」(佐藤信弥)]、古文字 [号] J·金赫「試論 ´交´,・´爻′ 的同源關係」 (横大路綾子・佐藤信弥)] 釋 (村上幸造):

の世界 同 ISSUE #17 March 2022 家(大形徹 DECEMBER 2021, RADIANT ISSUE #15 July 2021 column#1 白川学 JOURNAL OF CHINESE WRITING SYSTEM VOLUME $5 \cdot$ ISSUE $4 \cdot$ 他に出野文莉 宇宙 (大形徹) · 同 ISSUE #16 November 2021 音 (張莉)「白川静文字学在海内外的学术影响」中国文字 (大形徹):

第九十回 学客員研究員・諸橋轍次記念館・書家等々、延べ百二十六名(十二月まで)。 館大学院生・関西大学院生・大阪府立大学院生・学振研究員・立命館大 館大学・京都大学・大阪工業大学・大阪物療大学・東京学芸大学・立命 ラインおよび対面 漢字学研究会は、四月(九十回)から二月 四月十七日 (立命館大学衣笠キャンパス清心館)。参加者は立命 十二名 (九十九回予定) までオン

新出金文講読:笠川直樹 「嬭加編鐘

第九十一回 五月十五日

商周古文字読本講読:西尾真澄

甲骨文第一~二片

新出金文講読:笠川直樹 | 嬭加編鐘

商周古文字読本講読:池内早紀子 甲骨文第三~七片

新出金文講読:笠川直樹「嬭加編鐘」

商周古文字読本講読:重信あゆみ

甲骨文第八~十二片

第九十三回 七月十七日 十四名

新出金文講読:村上幸造「柞伯鼎

商周古文字読本講読:安東鱗:

商周古文字読本講読:安東麟:宜侯夨篡

新出金文講読:佐藤信弥「[女受]第九十四回 九月十七日 十八名

鼎

商周古文字読本講読:重信あゆみ 甲骨文第八~十二片

第九十五回 十月十七日 十一名

· 新田金文講読:村上幸造氏:「柞伯鼎(修正補足)」

商周古文字読本講読:安東麟「班簋」

新出金文講読:山田崇仁「晋公盤」第九十六回 十一月二十日 十八名

石川大我「午組ト辞の材料整理」(後半部)

新出金文講読:山田崇仁「晋公盤

第九十七回

十二月十七日

十七名

商周古文字読本講読:西尾真澄 甲骨文第十三~十五片

あと第九十八回 [一月]、第九十九回 [二月] を予定



日中韓漢籍研究プロジェクト報告

所長芳村弘道

り唐本を調査した。 の調査を行った。 村は陽明文庫と京都大学人文科学研究所の漢籍と朝鮮渡り唐本を調査 ねばならない漢籍や朝鮮渡り唐本の書誌調査もはかどらなかったが、芳 受け入れず、公共図書館も閲覧制限を行ったので、原本を子細に閲覧せ 書館珍本書庫収蔵の漢籍等の基礎調査も疫情により実行できなかった。 の三プロジェクト共同によるカザフスタン共和国教育科学省中央科学図 施できなかったのは、 究プロジェクトの「日中韓漢籍研究」の一つの大きな計画が本年度も実 籍交流国際学術会議」(南京大学主催) 高麗大学校漢字漢文研究所との共同開催による学術会議「第七回東亜漢 昨年度に引き続いて、 一〇二一年度も世界的な疫情が收束せず、南京大学域外漢籍研究所と 一〇月に慶應義塾大学附属研究所斯道文庫に赴いて、 靳春雨研究員は同志社大学図書館所蔵の明版『宋書』 なんとも残念であった。また懸案であった研究所 日本国内の多くの大学図書館が学外者の閲覧を が已むなく延期され、当第二研 所蔵の朝鮮渡

 芳村、松尾肇子客員協力研究員、大学院博士後期課程一回生の高語莎君、 と交往が密であった大徳寺芳春院の第六世、桂嶽宗芳の漢詩文集『桂芳と交往が密であった大徳寺芳春院の第六世、桂嶽宗芳の漢詩文集『桂芳と交往が密であった大徳寺芳春院の第六世、桂嶽宗芳の漢詩文集『桂芳と交往が密であった大徳寺芳春院の第六世、桂嶽宗芳の漢詩文集『桂芳と交往が密であった大徳寺芳春院の第六世、桂嶽宗芳の漢詩文集『桂芳と交往が密であった大徳寺芳春院の第六世、桂嶽宗芳の漢詩文集『桂芳と交往が密であった大徳寺芳春院の第六世、根嶽宗芳の漢詩文集『桂芳と交往が密であった大徳寺芳春院の第六世、根嶽宗子の漢詩文集』といる。

中国からのオンライン参加である。なお、この研究については研究所紀 文学について、多くの興味深い問題が提起されつつある。なお黄鶯氏は、 換している。研究会を通して江戸前期の禅僧と公家の交流や当時の禅林 関連する 紹巴手識、 書になる「謚賜大圓広恵国師碑銘」、十二月に近衞前久の画・賛、 要第十五号掲載の川崎佐知子「大徳寺芳春院と近衞家」を一読願いたい ほぼ二回、 学外から福州大学外国語学院の黄鶯氏がこれに参加した。 近衞家の漢学」 『桂芳集』 富岡鉄斎旧蔵 研究会を開き、 研究に関連する資料として、六月に近衞家熈の撰文 の作品を読み、 「飯尾宗祇像」を購入した。いずれ紹介の機会 近衞基凞の事跡や所詠和歌にも着目して彼と 分担作成した訳注稿について意見交 四月から毎月 里村

本・川崎・芳村によるものである。の翻刻の続稿として整理し、研究所紀要第十五号に発表した。これは中研究所所蔵の『別本 御書物方年譜覚書』についての研究を、当該資料また日本における漢籍の受容に関連して、昨年度から継続している当

をもちたい。

一会年度から萩原正樹副所長を中心として、「日中韓文人交流研究」を開いた。一会探究するものである。二○二二年二月二十六日に衣笠キャンパス清でも探究するものである。二○二二年二月二十六日に衣笠キャンパス清でも探究するものである。二○二二年二月二十六日に衣笠キャンパス清で・一位第二○六号教室でオンラインによって「日中韓文人交流研究」を開いた。一位第二○六号教室でオンラインによって「日中韓文人交流研究」を開いた。一位、以下の研究発表が行われた。

伝―重ねて楊守敬と森立之との交遊に及ぶ」 富嘉吟(お茶の水女子大学)「江戸時代における『玉燭宝典』の流

靳春雨(立命館大学)「小野湖山と清人との交流について」

佘筠珺(台湾大学)「館森鴻《螳螂龕筆叢》研究

魯耀翰(高麗大学校)「植民地時代における「南山文社」の創設と萩原正樹(立命館大学)「『隨鷗集』に見える中国の詩人」

日韓文人の交流について」

月に行われた。これに関しては別項の記事を御覧頂きたい。 所蔵和漢貴重本の紹介―」と題する「立命館土曜講座」が左記の如く三 また当プロジェクトの研究員を講師とし、「和漢の書香―立命館大学

三月五日 川崎佐知子「西園寺文庫の「御会集」」

三月十二日 芳村弘道「立命館大学所蔵の漢籍貴重本

スでオンラインにより開催、左記の発表が行われた。「朝鮮渡り唐本」の研究報告会を二〇二二年三月二六日に衣笠キャン

パ

について」
住吉朋彦(慶應義塾大学斯道文庫)「古城坦堂旧蔵の朝鮮渡り唐本

萩原正樹「『清平山堂話本』「快嘴李翠蓮記」に見える撒帳詩について」

魯耀翰「李朝初期唐本輸入概括―集部を中心に

富嘉吟「大東急記念文庫所蔵『続佚存叢書目』について」

靳春雨「日本人の漢詩存稿二種について」

主な研究員の本年度の業績

萩原正樹

補遺」(「學林」第七二号、二〇二一年六月) 【論文】「志村五城と竹内東仙の詞―神田博士『日本における中國文學』

詞六首―」(「宋代文學學會報」第八集、二〇二一年一二月)「和刻本『事林廣記』に見える宋詞について―『全宋詞』未收「迎仙客」

静記念東洋文字文化研究所紀要」第一五号、二〇二二年三月)「森槐南の詞學―『作詩法講話』に見える詞の起源説―」(「立命館白川

二〇二一年一二月)

川崎佐知子

第一一四号、二〇二一年五月)【論文】「立命館大学図書館蔵『詠百首和歌』について」(『論究日本文学』

一五号、二〇二二年三月)「大徳寺芳春院と近衞家」(『白川静記念東洋文字文化研究所紀要』第

本大と共著) 東洋文字文化研究所紀要』第一五号、 二〇二二年三月、芳村弘道・中東洋文字文化研究所紀要』第一五号、 二〇二二年三月、芳村弘道・中【資料紹介】「翻刻『別本 御書物方年譜覚書』(其の二)」(『白川静記念

回例会、二〇二一年六月一二日、オンライン開催)【学会発表】「渉成園の偶仙楼をめぐって」(中古文学会関西部会第五八

享受の文学史的展開―「もうひとつの『源氏物語』」の注釈・絵画化―)二〇二一年八月二七日、オンライン開催、パネル名 LitPre05『狭衣物語』「村田春海による『狭衣物語』研究」(第十六回欧州日本学会国際会議、

勒看雨

二〇二一年七月)
アジア・日本研究学術年報』第二号、立命館大学アジア・日本研究所、【論文】「宋代詞学の史資料研究と日中韓・漢字文化圏の交流」(『立命館

(中国芸文研究会、オンライン開催、二〇二一年四月二五日)【学会・研究会発表】「『中州集』の刊行及び日本における元遺山の受容」

セミナー、茨木キャンパス分林館、二〇二一年六月二九日)「「詞」とは何?―日本での興起と発展」(立命館大学 OIC ライスボール

オンライン開催、二〇二一年七月一三日) して」(第三四回 AJI 研究最前線セミナー、立命館アジア・日本研究、「東アジアの漢籍をめぐる文化交流:13~17世紀の詩集の環流を事例と

與詩禮文化研究国際論壇、上海大学文学院、オンライン開催、二〇二一「漢籍交流和文化延伸:以和刻本高青邱詩詞集的刊行為例」(第三届詩詞に」(中国芸文研究会、オンライン開催、二〇二一年八月二九日)「明治文壇における高青邱詩の受容―長三洲と近藤元粋の次韻詩を中心

年一〇月二三日

"Cultural Exchange of Ci Poems between China, Japan and Korea: Focusing on the Method of Transmission of Song Ci", The 19th Asia Pacific Conference 2021 (Ritsumeikan Asia-Pacific University, 2021, 1205.)

芳村弘道

所紀要』第一五号、二〇二二年三月)【論文】「朝鮮渡り唐本の研究について」(『白川静記念東洋文字文化研究

中本大と共著) 東洋文字文化研究所紀要』第一五号、 二〇二二年三月、川崎佐知子・東洋文字文化研究所紀要』第一五号、 二〇二二年三月、川崎佐知子・【資料紹介】「翻刻『別本 御書物方年譜覚書』(其の二)」(『白川静記念

出版与収蔵」研習、オンライン開催、二〇二一年一一月六日)【講演】「収蔵古籍五十年」(台湾大学中国文学系「古典文学新視野:写本、

日本文献研究プロジェクト報告

研究顧問 杉 橋 隆 夫

てきた。 本第三プロジェクトでは、次の二~三のテーマを柱として研究を進め

報告してきた内容を、『研究所紀要』第十五号に寄稿することとした。が刊行されたのを機に、当プロジェクトがこれまで学会や研究会で口頭末に、同文書を主とする『賀茂別雷神社史料 3 賀茂神主経久記Ⅰ』一つは上賀茂神社が所蔵する『賀茂旧記』(重文)の精細な写真に基

全編数値化の試みと解釈、の二本の論稿を用意した。①は杉橋の旧稿を値と分析の試み―賀茂社における承久の乱再説、他―、②『賀茂旧記』全体として「『賀茂旧記』二題」と称し、①『賀茂旧記』の史料的価

てきDBに拠る基礎的作業の結果と解釈である。 研究の面でも応えようと意図している。②はプロジェクト独自に作成し今年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に触発された社会的関心に、踏まえ、今次の翻刻出版に対応したもので、昨年の承久の乱後八〇〇年、

て作業を進めている。日本における漢字・漢語に関する研究で、前近代と近代以降とに分かっ日本における漢字・漢語に関する研究で、前近代と近代以降とに分かっ他の一つは、近年急速に進展した各種DBや言語コーパスを利用して、

と『和字』『漢字』」の続編を構想している。前近代班では、昨年度『研究所紀要』に掲載した論文「『かな』『まな』

近現代班における構想と作業成果は次の通りである。

「―性」「―的」が造語力を増したといわれている。加していく中で、例えば字音接頭辞「非―」「未―」、字音接尾辞「―化」語が増加し、「漢語流行期」と呼ばれるような様相を呈した。漢語が増語が作られた。それら翻訳語の多くは漢語であったため、同時期には漢語が作られた。それら翻訳語の多くは漢語であったため、同時期には漢語が指の期には、西洋の学問、文化等を移入するに当たって多くの翻訳

今年度は、字音接頭辞「非―」に着目し、『日本語歴史コーパス』明今年度は、字音接頭辞「非―」に着目し、『日本語歴史コーパス』を資治・大正編Ⅰ雑誌、現在構築中の『昭和・平成書き言葉コーパス』を資治・大正編Ⅰ雑誌、現在構築中の『昭和・平成書き言葉コーパス』を資治・大正編Ⅰ雑誌、現在構築中の『昭和・平成書き言葉コーパス』を資治・大正編Ⅰ雑誌、現在構築中の『昭和・平成書き言葉コーパス』明

会議を行い、交渉のレベルが一段と引き上げられた。書館の枠を超えて、カザフスタン共和国科学アカデミー幹部とのテレビたものの実現はしなかった。しかしこの間、昨年七月末には調査対象図コロナ禍のために今年度も実行できず、先方研究者の来学も、申請があっなお、当プロジェクトが分担する予定のカザフスタンへの出張調査は、

(立命館大学名誉教授)

二〇二一年度連続公開講座の報告

容員研究員 高島 敏夫

講義に臨みました。とても興味をもって頂いたようです。 講義に臨みました。とても興味をもって頂いたようです。 講義に臨みました。とても興味をもって頂いたようです。 はいきました。とても興味をもって頂いたようです。 はめていきました。初回の冒頭で、この問題を解くために必要な古代王進めていきました。初回の冒頭で、この問題を解けなかった問題ですので、題した講座(全五回)を開きました。先生も解けなかった問題ですので、題した講座(全五回)を開きました。先生も解けなかった問題ですので、題した講座(全五回)を開きました。先生も解けなかった問題ですので、題した講座(全五回)を開きました。先生も解けなかった問題に必要な古代王進めていきました。初回の冒頭で、この問題を解くために必要な古代王進めていきました。できるだけ理解して頂きやすいようです。

(白川研究所客員研究員)

教育活動報告(二〇二一年度)

照月後藤 文男

な形で受けました。
初等・中等教育の現場は、今年度も新型コロナウィルスの影響を様々

での取り組みは、今年も元気をもたらしてくれました。中高の現場では実践を進めるには厳しい状況でしたが、立命館小学校

始したこともあり、今年度も図書館での「読書」の時間を中心に「漢字立命館小学校では、昨年度から全学年で「白川漢字」を学ぶ実践を開

力が実りました。

(写真1)

度の取り組みを報告します。 童の作品が全国的な賞を受けることにもなりました。以下、二〇二一年 を楽しんで学ぶ」雰囲気を学校中で作ってくれました。そんな中で、 児

1 「第12回創作漢字コンテスト」最優秀賞、「第8回白川静漢字教育賞 優秀賞を受賞

①立命館小学校の1年生の児童が、 的に奨励してきました。その地道な努 授賞しました。 の先生方が中心となって、各附属校で の中から「白川創作漢字最優秀賞」を 主催)で、一四三二七名の全応募作品 漢字コンテスト」(産経新聞社、 「創作漢字コンテスト」への応募を積極 数年前から、 白川 WG 白川研 「創作 白川創作漢字最優秀賞



写真 1 創作漢字コンテスト最優秀賞

(2)「わたしの好きな漢字展」を「京都漢字ミュ ②福井県が主催する「白川静漢字教育賞」【小中学生の部】「川柳部 ジアム」で初めて開催 字の成り立ち」に接していることが、児童た う 迷った時の my 進路」、・「竜くだる 七色の橋 学校の5年生二人が優秀賞(最高賞)を受賞しました。・「鳥に問 ちの想像力、創造力を羽ばたかせました。 川先生の「漢字の成り立ち」をもとにした川柳です。 門」(今年度【小中学生の部】が新設されました)で、立命館小 (11 月 桜龍 劉 神神 由由自 雨あがり」…白 日常的に 西省人 「漢

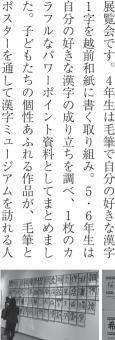


写真2 漢字ミュージアム展覧会とパワポ作品

4~6年生全員が取り組んだ古代文字作品の

3 す。(写真2) 全一〇〇時間!「読書」と「国語. 0) 時 間 で 漢

を楽しませてくれました。1月から校内でも展覧会を開催してい

ぇ

字を楽しく学ぶ」(年間:全学年

始めたばかりの1年生への白川漢字の実践も始 たくさん展示されています。(写真3 ナー」もあり、「漢字を楽しく学ぶ」関連本が めました。 1年生担当の志賀先生も加わって、漢字を習い ○○時間にも及ぶ「漢字の成り立ちとつなが 図書館教諭の大橋先生を中心に全学年で延べ 漢字授業が行われました。今年は、 図書館には、「白川先生の漢字コー



写真3 白川先生漢字コ ーナー&漢字の授業

4 もに取り組みました。外国から来た児童・生徒たちの漢字習得をど とつながりで学ぶ」方法で、立命館大学教職大学院の学生たちとと 多くの生徒たちが興味を持ったことが報告されています。 のようにしたらよいのか、津藤先生の試みは始まったばかりですが 童・生徒たちへの「漢字学習」の取り組みです。漢字を「成り立ち 立命館守山中高の津藤先生「ブラジル人学校」で漢字を教える(8月) 「日本ラチーノ学院(東近江市)」に通学するブラジルから来た児

- (5)東京の「ほぼ日學校」等で漢字講座を開催(8~12月) ①8月には河内長野市にある市民講座 社会人を対象にした取り組みも、ようやく少しずつ動き出しました。 を行いました。 開催され、 後藤が「コロナ禍の祈り」というテーマで2日間講演 「くろまろ塾」が2年ぶりに
- ②10月には、東京の「ほぼ日學校」で「白川先生に学ぶ~人の身体 を白川研の久保裕之氏が担当して講座を開きました。 からできた漢字」と題して後藤が、「古代文字のワークショップ」 ぼ日學校_ のネットで配信されています。 現在、「ほ
- ③ 12 月 に は、 公演会で「藝の話」と題してミニ講演を行いました。 「古代文字ダンス」を共同で取り組んだ司 バ レ 工 寸

高、社会人の活動の実践も報告できるよう、取り組みを進めていきます。践が光りました。次年度は、立命館小学校だけでなく、他の小学校、中今年は、中高での実践が少ないのが残念でしたが、その分、小学校の実

文化事業活動報告(二〇二一年度)

文化事業担当職員 久 保 裕 之

体験型漢字講座「漢字探検隊

各地からの参加を得た。

各地からの参加を得た。

各地からの参加を得た。

各地からの参加を得た。

各地からの参加を得た。

会になった自然や文化を学習する体験型の講座である。新型コロナのもとになった自然や文化を学習する体験型の講座である。新型コロナのもとになった。

会になった。

会になった。

会になった。

会になった。

のもとになった。

のもとになった自然や文化を学習する体験を通して漢字の成り立ちとそった。

ないるのをテーステムを活用した「おうち漢字探検隊」を開催し、北海道から九州まで、ステムを活用した「おうち漢字探検隊」を開催し、北海道から九州まで、ステムを活用した「おうち漢字探検隊」を開催し、北海道から九州まで、

のものをテーステムを活用した「おうち漢字探検隊」を開催し、北海道から九州まで、ステムを活用した「おうち漢字探検隊」を開催し、北海道から九州まで、

隊ウェブサイト」を二○二一年五月に開設した。応じて付与される「隊員制度」についての紹介等を掲載した「漢字探検応ことを期に、本プログラムの趣旨、これまでの活動内容や参加回数に「漢字探検隊」の開催回数が二○二○年度に全国通算二○○回を超え

| 54 300 福島市こむこむ館 | | | | | |
|----------------------|--------------|-----|-----------------------|----|-----|
| | 「はんこを作ろう」 | 篆刻 | 2 0 2 1 | 64 | 京都 |
| | 「漢字あそび大会」 | 総合 | 2 0 2 1 • | 15 | 福島 |
| 「合う」 25 仙台市八木山動物公園 | 「動物園で漢字と出合う」 | 動物 | 2 0 2 1 • | 3 | 宮城 |
| よう」 61 オンライン | 「昔の漢字を体験しよう」 | 書体 | 2 0 2 1 | 1 | ネット |
| 名 参加者数 場所 | 講座名 | テーマ | 実施年月 | 回 | 地域 |

学内他組織との連携事業

通して附属校間の漢字教育の連携と漢字文化の涵養を図っている。またループ(詳細は別稿に)も八年目を迎え、現在もオンラインでの会合を立命館附属校教員との白川文字学に基づく漢字教材制作ワーキンググ

よび門に関する情報等を記した銘板を設置した。 立命館大学衣笠キャンパスの門八か所の正式名所が決定さたれことを で立命館大学校友会による『オール立命館校友大会2021』のオンデ の前大学校友会による『オール立命館校友大会2021』のオンデ とを が呼に関する情報等を記した銘板を設置した。 の動画を公開した。ま のがに使用された漢字の成り立ち、字体の変遷お でンド企画にて「漢字~未知なる世界を訪ねて」の動画を公開した。ま でンド企画にで「漢字~未知なる世界を訪ねて」の動画を公開した。ま のが表表である初芝立命館中学校(大阪府堺市)への出張授業を行った。

他の機関との連携

割を占める。
割を占める。
割を占める。

「漢字教育士」は、同資格保有者の体の約七座」制度を通して育成した「漢字教育士」は、同資格保有者の体の約七報交換等が活発に行われ、同協会との「漢検漢字教育サポーター育成講成講座事業の受託を契機に、同検定受検者への当研究所の広報活動や情成講座事業の受託を契機に、同検定協会(京都市)とは「漢字教育士」養公益財団法人日本漢字能力検定協会(京都市)とは「漢字教育士」養

乙会、株式会社平凡社、株式会社モリサワからの協力を得ている。福井県ほかの後援を受け、富国生命保険株式会社の特別協賛、株式会社氏を迎え、応募者数は約一万四千余となった。本コンテストは、文化庁、は第十二回を数える。今回もアンバサダーに名誉漢字教育士の武田鉄矢産経新聞社(東京都千代田区)との共催事業「創作漢字コンテスト」

が実現した。 が実現した。 立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIIRO)客員研 立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIIRO)客員研 立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIIRO)客員研

を開講、八科目を修了すると「漢字教育士」資格が取得できる。 放送大学大阪学習センター(大阪市)では同校の面接授業に「漢字学」

氏が主宰する『ほぼ日の學校』(東京都千代田区)にも招かれ、「漢字の庫県神戸市)、兵庫県多可町教育委員会から招きを受けた。また糸井重里続講座のほか、摩気高山こども未来塾(京都府南丹市)と兵庫倶楽部(兵大学校(京都市)、京都社会人大学校北近畿校(京都府福知山市)での連出張講座では、姫路市立生涯学習大学校(兵庫県姫路市)、京都高齢者

自治体との関わり なりたちを知ろう―白川静さんの教えに学ぶ」と題した講座を開催した。

数は昨年よりも約三割減であったが、質的には、例年どおり、

催講座への講師派遣など、緊密な関係が続いている こども漢字教室『大自然の中でワクワク漢字探検 in 三方』」の講師 を取り入れる政策を実施しており、 として招かれ、 二〇二一年七月には、 福井県では学校教育や生涯学習に「白川文字学」に基づく漢字教育 他にも例年は「福井県白川静漢字教育賞」への協力や主 同県立三方青年の家との共催による「白川文字学 研修や学習会が開催されている。

四月に継続中。 兵庫県の姫路市生涯大学校で開講中の「漢字学」は第六期生が入学、 二〇二二年度には第七期生の開講も確定してい

東日本大震災復興支援活動「漢字で元気に」 ており、教育委員会への訪問や角田市立角田小学校への訪問授業を行った。 宮城県角田市とは同市議会議員の菅野マホ氏の協力により交流が続い

た。

でいる。 県で活動を行ってきた。二○二一年度では十一月に仙台市立八木山動物 うに、さまざまな話題や知識を提供する活動を行おうとする試みである。 を開催した。 公園と福島市こむこむ館で感染対策を講じた上で「漢字クイズラリー_ ように、そしてそこから生まれてくる絆の力を震災復興に向けられるよ 字・日本語を、家族をはじめとするコミュニティーの交流ツールとなる 支援活動の一つとして、 二〇一一年に福島市と宮城県角田市とで活動を開始、 **「漢字で元気に」は、二○一一年三月に発生した東日本大震災の復興** 福島県での活動では福島大学・澁澤尚研究室の協力を仰い 年齢・性別に関わらず共通の話題にできる漢 岩手県を含めた三

第十二回創作漢字コンテスト

研究顧問 加 地 伸 行

コロナ禍のピークに当たっていたからでもあろうか、投稿

今年度は、

選んだ。 入選者は、立命館小学校の生徒。そのこと、あとから聞いて、私も驚 を「7」に換えて「呂」(にじ・なないろ)とした作品をも最優秀賞に ル)を選んだ。また、コロナとは無関係ではあるが、「色」字の上部の「ク」 の特別賞とした。そういう状況の中で最優秀賞に「「猫」(ノンアルコー りをかけた優秀作品も多かったので、それらを五点を集めてコロナ特集 であり、 という三文字、すなわちコと口とナとの三文字をただ組み合わせたもの が多く、その意味では、コロナ禍、何するものぞ、という感じであった。 さて、そのコロナを題材にした作品が多かったが、大半は「コロナ-工夫が見られなかった。しかし、もちろんコロナに対してひね 作者は六歳の小学生。審査員一同をうならせた。 因みに、この

下とに分け、生徒・児童に対しては、高 刀流」の変形にすぎず、入賞作とすることはできなかった。 谷翔平選手を材料にした作品が相当多くあったが、すべてその流行語「二 その他の流行話題として、アメリカのプロ野球界において活躍した大 なお、従来の分類から、社会人に対しては六十歳以上クラスとそれ以

ることが、このコンテストを通じて明ら 異なり、 る今日 かとなりつつある。 〈考える〉訓練が強く求められてきてい 日本の教育において、物事に対して 考える訓練に適合した方法であ 創作漢字は、 従来の略記第一と

大阪大学 名誉教授



きたことに対応したためである。

した。高齢者・小中学生の投稿が増えて 校生・中学生・小学生と分類することに

ノンアルコール

| 年目を迎えた | 漢字教育士] の活動

文化事業担当 久 保 裕 之

二〇一一年度に創設した「漢字教育士」資格認定制度もまる十年 今では資格認定者数が九○○名に近づいています。 -が経

本語 世の中に漢字文化の種をまき、 を広げ、 かわらず広く使われる媒体です。 格は生まれました。 につけた方です。 漢字教育士」とは、 の状況を理解し、 絆を強めるものになることを期待しています。 漢字の楽しさを知った方が、それを伝えることにより、 日本の社会においては、漢字・日本語は老若男女か 幅広い知識を有するとともに、「教える力」 漢字の成り立ちや文化的背景、 花を咲かせようという思いから、 「漢字教育士」 の活動が、 現代の漢字 人々の交流 この資 を身 \exists

び

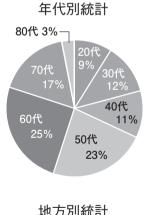
②漢字教育士資格認定ウェブ講座の修了の二つです。 漢字教育士資格認定講座の方式は、 ①指定機関での指定科目 この修了、

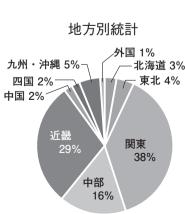
試験に合格され、 申込のある人気科目となっています。 生併せて八〇名の方が 単位を取得して「漢字教育士」 取得の条件となっており、 が毎学期開講されており、 漢字学」が開講しました。 指定機関としては、放送大学大阪学習センターでの面接授業 また姫路市立生涯学習大学校では、二〇一六年度より二年コー 資格を得ています 対面講座で学んでおり、 その取得には最短四年かかりますが、 毎回関西地方をはじめとする全国からの聴 コロナ禍においても現在第五期生・ の取得をされた方も六名いらっ 八単位取得が これまでに二三名の方 「漢字教育士」 「漢字学 地 道 ま

講座 ゥ Í 0) ブ講座は一 つとして行われています。 一〇一六年二月より立命館アカデミックセンタ 時間的 空間 的 制限 がな ĺ のでど 0 直

> サポ 報共有や交流を促しています。 イト」を開設し、 ウェブ講座としては最多の一七〇名余りが受講、 会員の中 た個人の漢字能力を社会に還元できる人材を育てようと「漢検漢字教育 会)との提携も大きな効果を上げています。 受講も増えています。 なたでも受講でき、 の場を提供していきます。 -期の受講が修了しますが、 ター から毎年選抜されて本講座を受講しています。 制度を二〇一二年に創設、 漢字教育士の制度や活動を紹介し、 日本国内はもとより、 また公益財団法人日本漢字能力検定協会 二〇二一年五月には 漢検協会とは以降も新制度を創設し、 「漢検漢字教育ネットワー 国外在住の日本人・外国人の 漢検協会は漢検受検で培 三月をもって最終期 「漢字教育士ウェ 漢字教育士間 二〇二一年度は (漢検協 ゥ

です。 士と武田鉄矢氏) て海外五か国に在住しています。 漢字教育士は二〇二一年末現在八八四名で、 そのうち、 と特別認定者二一名、課程修了による認定者八六一名 課程修了による認定者の内訳は左の表の通りです。 内訳は名誉漢字教育士三 全国四十七都道府県そし 二名 白川 静博





書籍紹

佐藤信弥 『戦争の中国古代史』(講談社現代新書、二〇二一 年

世界観、 際秩序」の形成 第二章西周王朝 史を描く。【目次】 石器時代から漢の武帝の時代まで、 0) 形を求めて 兵器、 軍事思想などを解説。 / 第四章戦国時代 溥天の下、 序章戦争の起源 終章 中国 王土に非ざる莫し/第三章春秋時代 の行く末 帝国への道/第五章秦漢王朝 / 第一章殷王朝 戦争を通じた 主要な戦争、 人物、 中国 旬に憂い亡きかん 軍 形成の古代 制 外交、 玉

て詳述。

僊の解釈は白川静説をもとに展開。

霊芝再考を追加



佐藤信弥 宮廷美女の中国時代劇』(中公新書ラクレ、二〇二一年 『戦乱の中国の英雄たち 三国志、『キングダム』、

リップ物、 ングダム 気作品とともに辿る。 近年注目を集める中国時代劇。歴史大作から武侠物、 、第六章剣客たちの政治学 第四章異民族?自民族? 架空歴史物、 の時代と実力主義/第三章項羽と劉邦のタイム・パラドック 【目次】第一章虚実の狭間の三国志/第二章 時代劇ファンタジーまで、 /終章中国時代劇のこれまでとこれから / 第五章ジェンダーの壁に挑む女帝武則天 その魅力を主要な人 宮廷物、 タイムス ーキ



Ш 崎佐知子 『応円満院殿御詠歌-―近衞基凞の家集

(古典ライブラリー

||○||二||年

解題、 歌集である。本書は、その全容を紹介するとともに、 衞基前が、基熈の詠草より二千餘首を撰び、 近衞基凞の家集 「基凞公御詠草」、『基凞公記』などの諸資料との関係を検証する。 『応円満院殿御詠歌』 『応円満院殿御詠歌』 和歌会年表、題·詞書索引、 (陽明文庫蔵) 四季・恋・雑に部類した和 は、 陽明文庫に伝わる 初句索引を付す。 基凞玄孫の近 巻末に、



戦乱中国の

英雄たち

大形徹 『不老不死:仙人の誕生と神仙

ある。 奔する皇帝たち、 続けたが、 古代中国では、 本書では肉体の保存にはじまり、 肉体は朽ちる。この肉体を不滅にしたのが不老不死の仙人で 死は終わりではなく、 (志学社二〇二一年、 毒物をも含む仙薬、 講談社現代新書一九九二年の復刊 再生の始まりであった。 房中術など「気」 仙人の誕生、 不老不死を求め狂 の長寿法につ 魂は生き